

令和 6 年度 事業報告

公益財団法人 日本鳥類保護連盟

令和6年度 事業報告 目次

I. 総括	2
II. 実施事業	2
1. 鳥類等の保全及び自然愛護精神の普及啓発に関する事業	2
(1) バードピア推進事業	2
(2) 企業・自治体・団体の自然豊かな環境作りサポート	2
(3) 愛鳥週間関連事業（愛鳥週間 5月10日～5月16日）	2
(4) 愛鳥懇話会	3
(5) ビジターセンター等施設における解説・管理等	3
(6) 巣箱架設行事・活動	3
(7) その他教育事業への講師派遣	4
(8) 野鳥保護に関するキャンペーン	4
(9) イベントによる普及啓発活動	5
(10) 普及啓発を目的とした商品の販売	5
2. 鳥類等の保全に向けた調査研究に関する事業	5
(1) 自主調査及び保護研究事業	5
(2) 受託事業	7
3. 鳥類保護の国際協力に関する事業	9
(1) フィリピンにおける自然保護活動	9
(2) 国際サシバサミット	9
(3) 日中トキ協力事業	9
4. 表彰に関する事業	9
(1) 令和6年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰	9
(2) 第58回全国野生生物保護活動発表大会	10
5. 連盟の組織運営の基盤となる事業	10
(1) 機関誌「私たちの自然」	10
(2) 支部会議の開催	10
(3) 支部交流会	10
(4) 支部報	11
(5) 日本鳥類保護連盟活動推進ワーキンググループ	11
(6) 各種媒体を通じた広報	11
(7) 寄附を獲得するための活動	11

令和 6 年度 事業報告

I. 総括

事業計画の基本方針として掲げた点についての総括は以下のとおりである。

事業の柱である普及啓発・調査研究等公益に資する事業の活性化については、寄付が好調だったことが幸いしおおむね達成できた。

支部との連携強化と活動の活性化、国際協力事業を展開については特に目立った進展はなかったが着実に実行した。

ホームページ、SNS などを活用し特に企業、団体への働きかけを強化したが、会員数は横ばいまたは減少傾向で成果は上がっていない。

寄付金、助成金等の獲得については、遺贈寄付やクラウドファンディングの実績が伸びており、連盟の収支の改善に貢献した。

II. 事業報告

1. 鳥類等の保全及び自然愛護精神の普及啓発に関する事業

(1) バードピア推進事業

ホームページ、機関誌のほか、野鳥関連商品、ホームセンターと連携した販促物等を通してバードピアについて啓発するとともに、既存の登録者の中で宣伝を希望する団体を SNS やホームページで紹介するサービスを引き続き行った。

令和 6 年度末の登録者数は企業 63 社、個人 219 人。

(2) 企業・自治体・団体の自然豊かな環境作りサポート

所有する敷地内の緑地や社有林を活用して自然環境保全活動に貢献したいと考えている企業や団体向けに、生きものが棲みやすい環境作りや社員向けの環境教育・環境学習プログラムを提案できるよう体制を整えた。

(3) 愛鳥週間関連事業(愛鳥週間 5 月 10 日～5 月 16 日)

① 第 78 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

令和 6 年は 5 月 12 日(日)に東京都の虎ノ門ヒルズで式典を開催した。式典は常陸宮妃殿下ご臨席のもと、野生生物保護功労者表彰の受賞者とその関係者を招いて執り行った。

② 令和7年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール

全国の小・中・高校生を対象に、環境省・文部科学省・林野庁の後援を得て実施した。全国から33,398点の応募があった。この中から各都道府県より推薦された418点を審査し、令和7年度愛鳥週間用ポスターの原画となる総裁賞のほか、環境大臣賞などの入賞作品を選定した。この原画をもとに令和7年度愛鳥週間用ポスターを制作し、各都道府県に配布した。

③ 愛鳥週間関連各種普及啓発事業

愛鳥週間における普及啓発事業を、自然観察会、探鳥会、愛鳥週間用ポスター展、愛鳥写真展及び表彰など、各事業を実施した。

④ 愛鳥ポスター及び野鳥写真の展示（岡山県支部）

愛鳥ポスター及び野鳥写真の入賞作品を展示した。

8月5日（月）から8月9日（金）倉敷市役所

8月20日（火）から8月25日（日）岡山県生涯学習センター

10月13日（日）岡山県みどりの大会（おおさ総合センター）

(4) 愛鳥懇話会

12月11日（水）にアークヒルズクラブ（ARK HILLS CLUB）において、常陸宮妃殿下の御臨席を賜り、連盟関係者約50名の参加者とともに愛鳥懇話会を開催した。「令和7年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール総裁賞」「第6回シマフクロウステッカーデザインコンテスト最優秀賞」の各授賞式を執り行い、日本鳥類保護連盟の公益事業の紹介後、立食による懇談を行った。

(5) ビジターセンター等施設における解説・管理等

釧路湿原国立公園の環境省施設である、温根内ビジターセンターと塘路湖エコミュージアムセンターの管理運営業務を環境省から、また、釧路湿原国立公園自然ふれあい活動業務を釧路湿原国立公園連絡協議会から請け負い実施した。専門の職員を4名配置し、施設の維持管理や併設されている遊歩道の管理を行った。季節の自然情報を施設内やSNSなどで情報発信したほか、自然観察会や地域の学校等への環境学習を実施し、ワイズユース（賢明な利用）の理念のもと、普及啓発活動に努めた。また、各施設周辺の自然情報を発信する目的で、「月刊 温根内通信」と「月刊 やちまなこ」を発行した。なお、この活動は釧路支部が行った。

(6) 巣箱架設行事・活動

下記の通り巣箱かけを中心とした自然環境教育事業を行った。児童向けプログラムでは巣箱作り、巣箱架け、巣箱調査を行った。

① 環境省新宿御苑管理事務所との共催事業

12月15日（日）に巣箱調査、1月25日（日）に巣箱作りと巣箱架けをそれぞれ実

施した。(参加者:12月15日 26名、1月25日 25名)

② 講師派遣

杉並区立向陽中学校(9月2日参加者30名)、所沢航空公園(9月16日26名、11月24日53名)、まちの保育園12月20日20名1月23日20名)、麴町小学校(3月8日30名)

(7) その他教育行事への講師派遣

① NHK文化センター青山教室「はじめてのバードウォッチング」

10月3日(木)オリエンテーション(於:NHK文化センター青山教室)[参加者7名]、10月10日(木)新宿御苑[参加者16名]、11月14日(木)井之頭公園[参加者17名]、12月12日(木)多摩森林科学園[参加者12名]、1月10日(金)多摩川[参加者14名]、2月13日(木)石神井公園[参加者14名]、3月13日(木)水元公園[参加者15名]

② すぎなみサイエンス Labo

6月16日(土)「鳥の世界へようこそ!!鳥の巣ってすごいです」セッション杉並[参加者:27名]

③ まちの保育園

7月12日(金)「鳥博士と闇夜の探検」まちの保育園[参加者:10名]、7月28日(土)「鳥たちのヒミツ」まちの保育園(港区)[参加者:15名]

④ 森ビル株式会社親子ワークショップ2024in 企業と環境展

10月19日(土)「都会で見られる身近な鳥や六本木ヒルズの屋上庭園をのぞいてみよう!」六本木ヒルズ[30名]

⑤ 麴町小学校 ワーク・わく・クラブ

11月9日(土)「鳥の形をしたマグネット色塗り工作」麴町小学校[参加者37名]、1月18日(土)「北の丸バードウォッチング」北の丸公園[参加者:40名]

⑥ すぎなみ地域大学 令和6年度水鳥等調査・解説員養成講座

11月30日(土)「第4回講座 鳥の巣箱」杉並区郷土資料館[参加者:14名]

⑦ 所沢航空発祥記念館・所沢航空記念公園管理事務所

2月9日(日)「鳥のマグネットのペイントに挑戦!」所沢航空発祥記念館[参加者:37名]

(8) 野鳥保護に関するキャンペーン

① 「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

1995年より始まったキャンペーンを4月1日から7月31日までを期間とし、当連盟、(公財)日本野鳥の会、NPO法人野生動物救護獣医師協会3団体の共催及び環境省の後援により実施した。都道府県及び企業・団体の協賛、協力を得て、普及啓発ポスターを3団体で111,500枚作成し、自治体、学校、公共施設、動物病院などに配布した。

② 全国一斉テグス（釣り糸）ひろい 2024

放置された釣り糸・釣り具による野鳥への被害を防止するため、特に海釣りや溪流釣り等が盛んとなる 5 月 1 日から 10 月 31 日の間、機関誌・ホームページなどで重点的に広報し、テグスひろいの実施と結果報告を呼びかけた。令和 6 年度は 7 地点、のべ 91 名が参加し、推定として 5,473m(1g=13m)のテグスを回収した。

5 月 19 日(日)には連盟本部主催のテグス拾い活動を東京都の葛西海浜公園で行った。SNS や機関誌で参加を呼びかけたところ、30 名の方にご参加いただき、多くのテグスや釣り針などを回収することができた。

(9) イベントによる普及啓発活動

愛鳥思想の普及啓発を目的としてイベントを実施またはイベントに参加した。

- ① ジャパンバードフェスティバル（11 月 2 日(土)3 日(日)我孫子市）
- ② すぎなみサイエンスフェスタ（3 月 2 日(日)杉並区 IMAGINUS（イマジナス））
- ③ 人とみどりと野鳥のつどい（岡山県支部）（4 月 2(月)岡山県自然保護センター）
- ④ 野鳥写真コンクール（岡山県支部）（7 月 19 日(金)岡山県立図書館）

(10) 普及啓発を目的とした商品の販売

野鳥カレンダー、野鳥シート、バードピンズ及び音声再生録音ペン(G-Speak)などの既存の商品の他、取扱商品の拡充に努めるとともに、オンライン注文充実のため体制を整えた。また、新しい鳥種デザイン 2 種のバードピンズと販売、実用新案を取得した 2 つ穴巣箱の販売や、企業とのタイアップによる新商品の企画提案を行った。

2. 鳥類等の保全に向けた調査研究に関する事業

(1) 自主調査及び保護研究事業

① コアジサシの渡りルート解明に関する調査

コアジサシ研究センターとして以下の調査研究事業を行った。

絶滅危惧種コアジサシの渡りルートや中継地、越冬地を把握して保護に役立てることを目的として、平成 25 年度からジオロケーター(渡りルートを把握するための機器)をコアジサシに装着、平成 27 年度からはより詳細なデータを得るために GPS ロガーを装着してきた。令和 6 年度はこれらのデータロガーを回収するには至らなかったが、より詳細な情報が得られる新たな機器を検討し令和 7 年度に向けて準備を進めた。

② シマフクロウ保護のための活動

国内希少野生動植物種に指定されているシマフクロウは北海道内で現在 100 つがい（環境省 2023）が確認されている。連盟では国が策定した「シマフクロウ保護増殖事業計画」に基づいて環境省・林野庁から種々の保護事業を請け負い、主に、シマフクロウのヒナへ足環を装着する標識調査、給餌池に生きた魚を放流する給餌作業、全道に現在 180 個ほど設置されている巣箱のメンテナンス・新規設置、国有林内の生息地の巡視などを行った。

③ アマミヤマシギの調査・研究活動

沖縄県沖縄島および鹿児島県沖永良部島において、絶滅危惧種であるアマミヤマシギの保全のための調査研究を実施した。アマミヤマシギの移動生態について GPS タグを用いて調査するもので、令和 3 年度から実施している。この活動は令和 3 年度から令和 5 年度までは連盟がサントリー世界愛鳥基金から助成を受けて実施していたが、令和 6 年度は奄美野鳥の会が同基金から助成を受け、連盟は共同団体として参画した。この調査はアマミヤマシギの移動生態を調べるもので、令和 4 年度には、沖縄島で捕獲した 3 羽の内 1 羽が奄美大島に渡ったことが初めて確認された。令和 6 年度は沖縄島と沖永良部島で捕獲を試みたが、捕獲には至らなかった。

④ 奄美大島におけるサシバの調査

NP0 法人奄美野鳥の会、アジア猛禽類ネットワーク、（公財）日本自然保護協会、（公財）日本野鳥の会と協働で、奄美大島のサシバの渡りルートについて把握するため、令和 5 年度に 11 羽のサシバへ GPS タグを装着し追跡した。全ての追跡個体からデータを取ることができ、貴重な情報を得ることができたため、結果を 9 月に東京大学で行われた日本鳥学会大会で口頭発表を行った。さらに、継続して調査を行うため、令和 6 年度は奄美大島の宇検村において GPS タグの装着を試み、サシバ 11 羽に装着することができた。これらの個体については、令和 5 年度に装着した個体と合わせて継続して追跡を行っている。この調査は READYFOR のクラウドファンディングにおける支援で実施した。

⑤ ワカケホンセイインコの調査・研究

外来種対策の一環として調査・研究を行っている。令和 6 年度は東京近郊に生息している外来種ワカケホンセイインコの繁殖生態を調査するため、東京都市大学と協働して巣箱に営巣した個体の巣箱内での様子を映像で記録した。これによって巣箱の利用状況と気象条件について関連性があることが分かったため、日本動物行動学会にてポスター発表を行った。また本種はオウム病を媒介する恐れがあることから東京農工大学と協働して糞のサンプリングを行い、オウム病の罹患率や病原体の種類について調査した。

⑥ 本州でのトキ野生復帰・定着支援プロジェクト

佐渡島では野生下で生息するトキが500羽を超えたが、生息密度が高まることによる感染症リスク等が懸念されるとともに、本州に飛来するトキも確認されているものの、本州での定着には至っていない。

このため、環境省では本州でのトキの定着を目指して、2022年に「将来的なトキの野生復帰を目指し環境整備を進める地域（A地域）」として2地域（石川県1県9市町、出雲市）、「放鳥は行わないものの飛来したトキが生息できる環境整備を進める地域（B地域）」として3地域（コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム、宮城県登米市、秋田県にかほ市）を選定した。

これら5地域において、各地域の状況に応じ、各地域のNGO等と協力しながら、トキの採餌・営巣環境整備及びトキを受け入れる地域としての社会環境整備の支援を行った。この活動はサントリー世界愛鳥基金からの助成を受けて実施した。

⑦ 2つ穴巣箱の実用新案登録と利用状況調査

これまでの調査で2つ穴巣箱はシジュウカラなどの樹洞営巣性鳥類によって好んで利用されることが分かったため、実用新案を申請し受理された。また、利用率についてより明確な結果を示すため、継続して利用状況調査を行った結果、2つ穴巣箱が優位に利用されることが改めて示されたため、9月に東京大学で行われた日本鳥学会大会でポスター発表を行った。この巣箱は啓発のため、販売を開始した。

⑧ 専門委員活動

鳥類保護に関心や経験を有し、指導力、実践力のある方や、鳥類を主とする観察会、または鳥類調査についての知識と経験を有する方に委嘱しており、機関誌などへの情報提供及び地域の愛鳥思想普及啓発活動を呼び掛けた。

⑨ 支部の調査活動

神奈川県支部、石川県支部としてツバメ調査に関わった。富山県支部として12月にハクチョウ一斉調査を行ったほか、富山県のガンカモ調査にも協力した。

(2) 受託事業

サントリー天然水の森の鳥類調査（サントリーホールディングス株式会社）、国指定天然記念物の十三崖のチョウゲンボウ繁殖地の調査（中野市）など、鳥類に関する調査を請け負い、実施した。

令和 6 年度 受託・請負事業一覧

区 分	事業名	担当	発注者
I 受 託 事 業	1. 令和 6 年度全国野鳥保護のつどい記念式典等 実施業務	本部	環境省
	2. 令和 6 年度日中トキ生息保護協力業務	本部	環境省
	3. 令和 6 年度シマフクロウ保護増殖事業（生息 状況調査・給餌・巣箱設置等業務）	釧路	環境省 釧路自然環境 事務所
	4. 令和 6 年度シマフクロウの生息拡大のための 生息状況等調査業務	釧路	環境省 北海道地方環 境事務所
	5. 令和 6 年度温根内ビジターセンター解説・管 理業務	釧路	環境省 釧路自然環境 事務所
	6. 令和 6 年度塘路湖エコミュージアムセンター 解説・管理業務	釧路	環境省 釧路自然環境 事務所
	7. 令和 6 年度標津地域における市民参加型シマ フクロウ保全手法検討等業務	釧路	環境省 釧路自然環境 事務所
	8. 令和 6 年度希少野生動植物種保護管理事業 （シマフクロウ）	釧路	林野庁 根釧東部森林 管理署
	9. 令和 6 年度希少野生動植物種保護管理事業 （シマフクロウ）	釧路	林野庁 根釧西部森林 管理署
	10. 令和 6 年度希少野生生物保護管理対策事業 （シマフクロウ）	釧路	林野庁 十勝東部森林 管理署
	11. 令和 6 年度釧路湿原保全巡視業務	釧路	標茶町
	10. 鳥獣生息分布調査	岡山	岡山県
II 請 負 事 業	11. 愛鳥ポスターコンクール	岡山	岡山県
	12. 令和 6 年度 国庫補助事業 十三崖のチョ ウゲンボウ 繁殖地天然記念物再生事業 モニタリング調査業務	本部	中野市
	1. サントリー天然水の森 鳥類調査	本部	サントリーホールディ ングス（株）
II 請 負 事 業	2. 志賀高原ホテルタキモトでの巣箱・水場メン テナンス	本部	志賀高原ホテルタキモ ト
	3. 令和 6 年度釧路湿原国立公園自然ふれあい活 動業務	釧路	釧路湿原国立公園連絡 協議会

3. 鳥類保護の国際協力に関する事業

(1) フィリピンにおける自然保護活動

フィリピン共和国(以下、フィリピン)において、NGO がボランティアで実施しているサシバ等の保護活動に協力するため、平成 28 年度から中古双眼鏡の募集を行い、寄附された双眼鏡をフィリピンに寄贈しているほか、平成 29 年度からは経団連自然保護基金からの助成を受けて日本と関わりのある渡り性猛禽類を保護するため、調査や植樹活動を行ってきた。令和 2 年度からはルソン島中部ヌエバビスカヤ州におけるサシバの密猟対策のための活動を実施しているが、令和 6 年度は令和 7 年 2 月 26 日(日)から 3 月 1 日(土)までヌエバビスカヤ州の関係行政機関、大学等を訪問しサシバの調査への協力や密猟対策、国際サシバサミットの開催地としての検討について要請を行った。

(2) 国際サシバサミット

渡り鳥であるサシバを国際協力で守っていくため、日本の主要な自然保護団体が力を合わせてサミットを開催しており、連盟も参画している。第 1 回は令和元年 5 月に栃木県市貝町で開催され、その後第 2 回が令和 3 年 10 月に沖縄県宮古島市で、第 3 回が令和 5 年 10 月に台湾で、第 4 回が令和 6 年 3 月にフィリピンのサンチェスミラで開催された。令和 6 年度は開催されなかったが、令和 7 年 10 月に奄美大島宇検村で開催される第 5 回サミットに向けて、実行委員として準備を進めた。

(3) 日中トキ協力事業

「日中共同トキ保護計画」に基づき、環境省の受託業務として、中国における野生のトキ個体群の保護・回復、生息環境の保護・整備、飼育下個体群の育成及び野生復帰を効果的に進めるとともに、日本の佐渡における野生復帰の取組みの参考とするために必要な調査、協力等の業務を目的とし、日中トキ生息保護協力に関する関連情報の収集を行ってきた。令和 6 年度は、トキ 16 羽を佐渡トキ保護センターから中国北京へ輸送する他、輸送期間中に訪日した中国側関係者の随行を行う業務について報告書を取りまとめ、「日中トキ生息保護協力業務報告書」として環境省に提出した。

4. 表彰に関する事業

(1) 令和 6 年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰

5 月 12 日(日)に東京都の虎ノ門ヒルズで第 78 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」を対面で開催し、その一環で功労者への表彰を行った。

(2) 第 58 回全国野生生物保護活動発表大会

令和 6 年度は、全国の小・中・高あわせて 23 校から応募があった。応募校には活動 PR 資料として動画または報告書を提出していただき、連盟 HP で公開して一般者の投票も実施した。活動 PR 資料をもとに専門家及び関係省庁で審査し、優秀とみなされた 9 校に環境大臣賞（3 校）、文部科学大臣賞（2 校）、林野庁長官賞（2 校）、（公財）日本鳥類保護連盟 会長賞（2 校）をそれぞれ授与した。11 月 27 日（水）には環境省において本大会を実施し、受賞校 9 校が活動内容や日ごろの成果を発表した後、専門家、関係省庁を交えて意見交換を行った。

5. 連盟の組織運営の基盤となる事業

(1) 機関誌「私たちの自然」

発行回数：機関誌を 6 回発行した。（2024 年 5・6 月号 No. 652～2025 年 3・4 月号 No. 657）※隔月発行。

発行部数：1,800 部

配布先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局及び教育委員会等。

特に以下について留意し誌面づくりを行った。

- ・特集テーマ：令和 6 年 12 月まで「共存・共生」令和 7 年 1 月から「野鳥を知る・楽しむ」
- ・わかりやすい誌面づくり：中学生が読んでも理解できる程度の内容を心掛けた。
- ・寄付受け入れについて紹介し、読者の理解を得るように努めた。
- ・Facebook や Twitter(X)、Youtube と連携した内容を盛り込むことで、SNS への誘導を試みた。
- ・会員の継続手続き負担軽減及び会費の滞納防止の観点から、機関紙にチラシを同封して Syncable のシステムを利用したクレジットカード支払いによる会員継続を促した。

(2) 支部会議

11 月 29 日（金）、本部と支部間及び支部相互間の協力・連携をさらに図っていくことを目的として、支部会議を対面とオンラインのハイブリッドで開催した。本部と支部間で活動内容を共有し、今後の取り組みに関する意見交換を行った。

(3) 支部交流会

石川県で実施予定であったが、能登における震災のため実施を見送った。

(4) 支部報

富山県、福井県、石川県、山梨県、茨城県、神奈川県、連盟京都の各支部が、支部報「らいちょう」、「こうのとり」「朱鷺」、「うぐいす」、「かわせみ便り」、「ふれんどリー」「うぐいす」をそれぞれ発行し、各地域の愛鳥思想普及啓発を推進した。

(5) 日本鳥類保護連盟活動推進ワーキンググループ

連盟の今後の活動を適切に推進していくため、理事や監事を含むワーキンググループを不定期に開催して意見交換を行った。

(6) 各種媒体を通じた広報

① ホームページ

連盟の活動をアピールするために、随時トップページのトピックスやニュースを更新したほか、団体概要、入会案内、寄附、活動紹介、商品について最新の情報を提供できるよう努めた。

ホームページ内に会員専用ページを公開し、会員限定で『私たちの自然』過去1年分のバックナンバーPDFを閲覧可能にした。また、会員価格専用のオンラインショップを設置した。

② Facebook・Twitter(X)・Youtube

本部、支部の活動や鳥類に関する記事などを掲載し、普及啓発に努めた。

③ 連盟案内チラシ

ホームページの内容のエッセンスを紙媒体にし、連盟を知ってもらうためのツールとして活用した。

④ メーリングリスト

寄附者を対象としたメーリングリストで、連盟の活動や鳥に関わる豆知識などを配信した。

(7) 寄附を獲得するための活動

① 第6回シマフクロウ保護のためのステッカーデザインコンテスト

寄付を募るためのステッカーデザインを募集し、かみとすみさんの作品「豊かな森のシマフクロウ」が最優秀賞に選ばれた。そのデザインでステッカーを制作して募金箱と共に温根内ビジターセンター等に設置し、寄附をいただいた方に配布した。

② クラウドファンディングの実施

サシバを保全していくための調査・研究として、11月18日(月)から1月17日(金)まで、「【第二弾】絶滅危惧種サシバの保全を皆の手で。渡りの全容解明への挑戦」をタイトルにREADYFORでクラウドファンディングを実施し、目標金額を超える支援金を集めることができた。

③ オンラインによる寄附

READYFOR、Syncable、Yahoo!ネット募金、Give One、Osuso に登録しオンラインでの寄付を募った。

④ 遺贈寄付等

寄付を積極的に受け入れるため、READYFOR の遺贈寄付運営サイトを活用しながら遺贈寄付を受け入れる体制を整えていることに加え、令和 6 年度は紺綬褒章公益団体認定制度の認可をとって、高額の寄付者が受勲できる体制を整えた。

⑤ その他

普及啓発活動及び調査・研究事業を円滑に行うため、個人や企業を対象として使用済み切手、巣箱事業等の各事業に対する寄附、中古双眼鏡(再掲)等物品を含む寄附を募った。